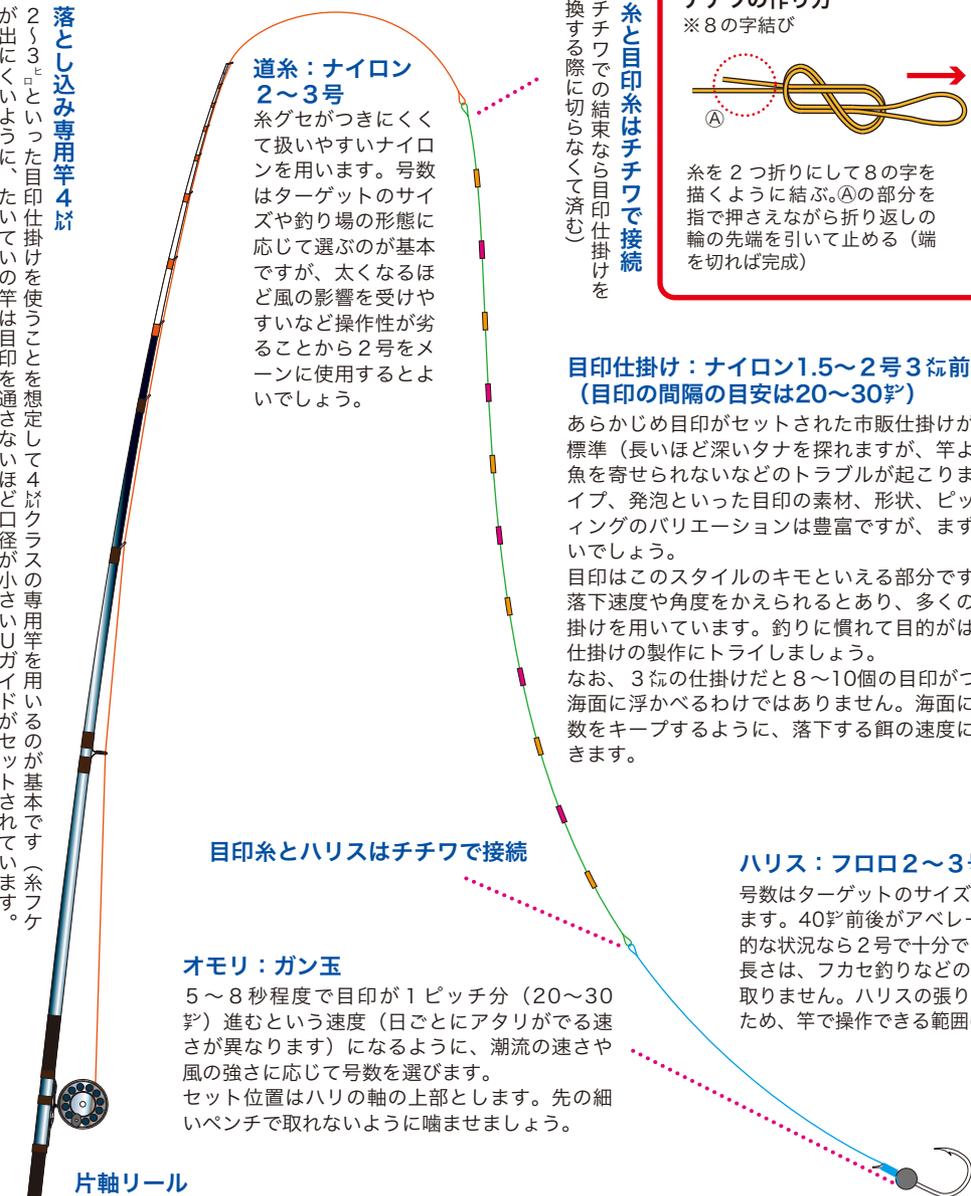


①目印スタイル

ラインに配した 10 個ほどの目印の動きの変化でアタリをとるパターンです。使用する仕掛けの長さには制約があるぶん深いタナは探れませんが、抵抗となる目印によって上層をじっくりと探れるという利点があります。2 月後半から 4 月ごろにかけて期待できる乗っ込み期、5 月中ごろから始まる産卵後の荒食期、南風によって濁りや波気が生じる盛夏など、チヌが上層を意識するタイミングでは独壇場となることも少なくありません。

落とし込み専用竿 4 尺
2.5 尺と 3 尺といった目印仕掛けを使うことを想定して 4 尺クラスの専用竿を用いるのが基本です（糸フケが出にくいように、たいていの竿は目印を通さないほど口径が小さい U ガイドがセットされています）。目印仕掛けを竿に巻き込めないため、仕掛けの長さは竿の全長と同程度までにおさめるのが一般的です。磯竿を流用することも可能ですが、穂先がやわらかいぶん目印の操作性に劣るのは否めません。本格的に入門を考えるなら穂先がシャキッとした専用竿を手に入れましょう。
なお、へちスタイルの竿と区別するために「落とし込み竿」と表記されていることが多いです。



道糸：ナイロン 2～3号
糸グセがつきにくくて扱いやすいナイロンを用います。号数はターゲットのサイズや釣り場の形態に応じて選ぶのが基本ですが、太くなるほど風の影響を受けやすいなど操作性が劣ることから 2 号をメインに使用するとよいでしょう。

目印系とハリスはチチワで接続

オモリ：ガン玉

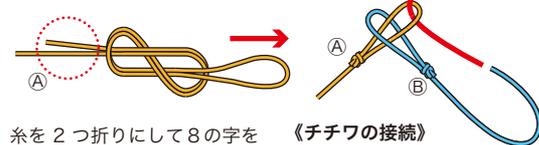
5～8 秒程度で目印が 1 ピッチ分（20～30 号）進むという速度（日ごとにアタリがでる速度が異なります）になるように、潮流の速さや風の強さに応じて号数を選びます。セット位置はハリの軸の上部とします。先の細いペンチで取れないように噛ませましょう。

片軸リール

重心が下にあるぶん竿の安定をはかりやすい下向きの片軸リールが一般的です。基本的に、やり取り時以外はラインの出し入れをしないため、不用意な糸フケやバックラッシュを生むスプールの回転を制御するクリックがついた専用リールがベターです。スプールを指で押さえるクセをつけられるならフリーで回転するフライリールを利用しても構いません。また、ホールドしやすい両軸リールを使うのもいいでしょう。

チチワの作り方

※ 8 の字結び



糸を 2 つ折りにして 8 の字を描くように結ぶ。A の部分を指で押さえながら折り返し、輪の先端を引いて止める（端を切れば完成）

《チチワの接続》

A（道糸側）を B（目印糸側）のチチワに通し、B の端を A のチチワに通して引っ張る

道糸と目印糸はチチワで接続
（チチワでの結束なら目印仕掛けを交換する際に切らなくて済む）

目印仕掛け：ナイロン 1.5～2 号 3 尺前後 + 目印
（目印の間隔の目安は 20～30 号）

あらかじめ目印がセットされた市販仕掛けが便利です。全長は 3 尺前後が標準（長いほど深いタナを探れますが、竿よりも長くなると取り込み時に魚を寄せられないなどのトラブルが起こります）。バルサ材+ビニールパイプ、発泡といった目印の素材、形状、ピッチ（目印の間隔）などセッティングのバリエーションは豊富ですが、まずは視認性を重視して選ばばよいでしょう。

目印はこのスタイルのキモといえる部分です。セッティングによって餌の落下速度や角度をかえられるとあり、多くのベテランがこだわりの自作仕掛けを用いています。釣りに慣れて目的がはっきりすれば、それに合った仕掛けの製作にトライしましょう。

なお、3 尺の仕掛けだと 8～10 個の目印がついていますが、そのすべてを海面に浮かべるわけではありません。海面に置くのは 2～3 個です。その数をキープするように、落下する餌の速度に応じて仕掛けを送り込んでいきます。

ハリス：フロロ 2～3 号 50～80 号

号数はターゲットのサイズや釣り場の状況に応じて調整します。40 号前後がアベレージの垂直ケーソンという一般的な状況なら 2 号で十分でしょう。

長さは、フカセ釣りなどの仕掛けを流す釣りのように長く取りません。ハリスの張りによって餌の進行方向が決まるため、竿で操作できる範囲の短めとするのが基本です。

ハリ：チヌバリ 2～5 号、伊勢尼 6～10 号

使用する餌の種類やサイズに合わせて選びます。最も多用される 2 号前後のイガイであれば、チヌバリなら 3～4 号、伊勢尼なら 7～9 号が適します。その他、カニ餌使用時はフトコロの深いカニ専用、虫餌使用時はズレにくいケンつきタイプという具合に目的に応じた形状を選ぶとよいでしょう。